

団体から活動内容の説明を受ける学生ら＝つくば市吾妻の筑波学院大



つくば市吾妻の筑波学院大学（大島愼子学長）で20日、学生が社会参加活動を行う独自の実践型授業「オフ・キャンパス・プログラム」（OCP）の受け入れ協力団体による今年度合同説明会が開かれた。市内や近隣を中心にNPOや企業など41団体が参加。対象の2年生約120人は担当者に直接話を聞き、活動希望調査の参考にした。

筑波学院大

「つくば市をキャンパスに」を掲げるOCPは11年目。2年生では、30時間以上の社会参加活動が必修科目として位置づけられる。イベント運営、ボランティア、企業体験などの広い分野から、興味などに応じて活動する。

「つくば市をキャンパスに」

社会参加型 41企業・団体が参加
授業説明会

学生は具体的な活動を尋ねたり、メモを取ったりしながら各団体を巡った。経営情報学科の小河莉穂さん（19）は「何をやるのか決まっていなかったけれど、会場を回ってみて、やりたかったことに近い、いいなと思うところがありました」と話した。

毎年4～5人を受け入れる吾妻地区の夏恒例「吾妻まつり」実行委員会では、「おばけやしきの大道具を作るのに若い人にお手伝いをしてもらえればと、協力をお願いしている。筑波学院大も同じ吾妻学区にあるので一緒に交流をしたい」と期待を語った。

今後、2年生は希望調査や面談などを経て、活動に入る予定。昨年度は39団体が活動した。（橋本ひとみ）